

鶴丸国永極 × 女審神者



DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止

はなのにおいが 彩りはじめる 今は春

ふう...

お疲れ様です
主様

はい

今日は
ここまでです

手入れ部屋は？

もう全部
解消しました

ありがとう

みんなの様子は？

変わり
ありません

もう夜ですし
様子を見るのは
明日の朝に
しましょう

こちらも
早急に対処する
改変場所は
なさそうです

今日はもう寝…



おつかれさん

おいで

もう休む
時間だぜ

後の世話は
俺に任せて
くれるよな

主様
おやすみなさいませ

はいはい
仕方ないですねえ

おやすみなさい…

はは

あいつ

少しばかり
優しくなったか？

さあ

今からの時間は
俺のものでいいよな？

静留

私の刀で

ただひとりの夫である
鶴丸国永が
修行の旅から帰還したのは
少し前のことでした

私がこの春を待つ
些細なあいだ

その巡りを
遠い時間の向こうで
きつと何度も迎えながら

彼は帰ってきました

私は

彼が出立してから
一日目は眠れなくて

二日目で思い悩み

三日目では
憔悴した顔では
出迎えられないと
気が付いて

彼の手紙を
枕元に置いて
眠りました

「…おっと」

「見つかったか」

「突然現れて
たいそう驚かせてやろうと
思ったんだがな」



そうだな
一緒に入ろうぜ
きみの身体を
洗うとするか



お風呂
さきに...



...楽しそうですね

楽しいからなあ



だから

私は





この目が

私は



花...

にやっ

ぽんやり
してるからさー

隙ありってね

やめておけ兄弟
今の叫びで
刀が集まるぞ

もう
わっ
ち
たし

15

もー！
鯰尾兄！
物思いにふける
人妻を見て
楽しんでたのに！！

いたのかよ
包丁：





え
それはどういう…

なんでも
ない

どうした

あんた
具合が悪いのか

野暮なこと聞くのは
やめてあげなさい

恋煩いでしょうから

そういうものか



え

こ

恋

えっ？



そっかあ
主がぼんやりしてるの
鶴丸さんが帰ってきてからか

分かりやすい

分かりやすいのが
主だけだね



おい流石に
そこは気付け

だってもう
夫婦なのに…？！

恋煩い
だったんですか
これ…？！





大将のために
箔をつけて
帰ってきた旦那は

いいかたなか？
おとこ



浮気か惚気か
分かんねえな

ははは

ふふ
だつてね

くす



私の刀たちはみんな
いいかたなですよ

もちろん鶴丸も
いい夫です

ああ わたしは

みんな

ここに帰ってきて
くれたじゃない

いま
このうえなく
嬉しいのだ

どうした
出て行かぬのか

おまえのことを
話している
ようだぞ？

流石に
あの場にそれは
野暮というものだろう

そうか

聞き耳も野暮だと
思うがな？

はは
見逃してくれ
父上殿

花を眺めるだけ
つてのも
たまにはいいもんだ

子の頼みなら
仕方がない

ああ

だが
安心したぞ

そろそろ
花の愛で方が
分かったようだな

…おかげさんでな

あっ

あ

あ

う

うーんうーん

ずっ

ひ

ずっ

ああ

ずっずっ…

んっ…

ずっ

ずっ

ずっ





まだ
動けるかい？



かわこ
こ。



あ



あ

あ
う

あ

あ

あ

ぬち

い

い

あ

あ



ん

い



かあ

な
あ

いま締まったぜ

な
たいてい



可愛いな



あ

きみは

どの角度から見ても
きれいだな



たくさん
やるから

受け取って
くれよ





いい夜だな



きみの肌に散る痕も
桜のようだな



桜は驚きはないが

いいよな

きれい...



もうはか!!

ははは

少し
縁側に出るか

っ
あ
七ちゃんときつるが、
まよって





さて
なにが不安なんだ？

きみに不安なんか
与えたくないんだがな

それとも俺に
惚れ直したかい？



はい

不安じゃなくて
ただ私はその
鶴丸がかっこよくて
ときどきしているだけ…
わ
笑わないで下さい！



？

きみは
本当に…

アル

かわい…

アル



帰って来て
くれたことが嬉しくて

それから

もっと恋をしている
だけなので…



だって…

時間の捉え方が
違うなんて
分かり切ってた
はずなのに

私は多分…
あなたの時間の
先に焦がれて



……

そうだなあ

毎日きみのことを
考えていたよ



きみを

俺は愛し平穏を与え
幸福にしたい

はじめは

なんとも
俺の有り様と
違うものだ

だが…



うん

考えていた

今代の主を



もっと近くに
いる気がする…

鶴丸の
私を見る目が

知らしめる

きみが待つのは
ひとときでいいんだ

長い旅の果てに

ここに

辿り着いて
定められたと

俺たちは
きみという
道しるべがあるから
戻ってこれる

それだけでいい

想いを
馳せてくれるだけで

それがとても

…私はここで
待っています

うん

そして
できれば



俺はきつと
それが見たい
だけだ

そんな
単純な願いさ



「あのよう」

「主」

とても
嬉しいのです

笑っていてくれ



鶴さんはいつも
「自分が去った
後の事」を
見越してた所が
あったと思うんだよな

いつ
いなくなっても
いいように



いついなくなっても
いいように
風みたいにすり抜ける

でも

何かを定めて
帰ってきた

だから
あれが本来の
鶴さんなのかも
しれねえな
って
思うんだ

何が言いたい
かっていうと
鶴さんをよろしくな
主!



わたしは

きっと

……
いつも鶴丸を
愛してますよ

そいつは何よりの
道しるべだ

身に余るほどの
恋をしていて

それが
この上なく
幸せなのです

きみに続く道への序章をなぞる



ほら

こいつを頼む

きちんと
俺の主
に
渡してくれよ



まあ

俺の場合は
恋しさに狂う前に
なんとか耐えられる
塩梅ってところか



ふん...



自分が
使う立場になって
ようやく実感したが

三回しか
したためられないというのも
いいんだか悪いんだか

上手い塩梅に
里心をくすぐられてる
気がするな



だけど
もうじき散ってしまう

物悲しく思うのは
寂しいからなのかね



静留

こちらは
花の季節だ

いやなに

花に
きみを見立てる
一人遊びのなれの果てだ

そろそろこれも
やめなきゃなあ

焦って手を伸ばすと
花が痛んじまう

求められているのは
平穏だとしても

俺の願いは至極単純で

昂る刀の性^{ミサガ}が
戦いたいと

ここでは
黄泉の入口から
掘り起こされたばかりの
昔の俺が唸っている

もう少しこれを
飼い慣らさなきゃな

そうしたら

そうしたら

帰る

きみのところへ

戻るための旅は

初めてだった

